

マタギ文化とやまの幸 新緑のブナ林教室

【朝日庄内保全センター・置賜署】

朝日庄内森林生態系保全センターでは、朝日山地の森林や自然の働きを体感し自然とのつきあいかたを学ぶ体験活動型森林環境教育等を行うため、各団体の協力を得ながら「朝日自然塾」を開催しています。今年は、「山の日制定 8.11」記念と題して5回計画しました。第1回目は地元山形県小国町の共催により、5月22日（日）に「マタギ文化とやまの幸 新緑のブナ林教室（白布平）」を置賜森林管理署管内で開催しました。

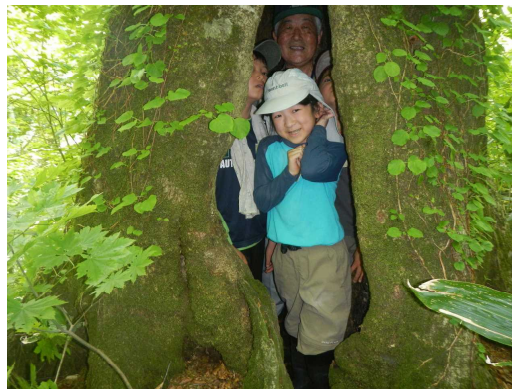
参加者は残念ながらキャンセルされた方がいたため7名（親子2組6名、一般1名）となりましたが、天候にも恵まれ無事実行できました。

開催場所は朝日連峰の南側登山口（針生平）から白布平までの約1.5kmの登山道を2時間かけて歩き、はじめに、吊り橋の歩き方、地図の見方や方位の確認方法を行ってから、登山道に入り山菜の見分け方、ブナ林の特徴や植物観察（小国の自然を守る会）、熊の習性や狩猟方法（山形県猟友会小国支部）、樹木の大きさ（置賜署）などについて、それぞれ担当から説明を行いました。

特に吊り橋は川からの高さがあり揺れることから、参加した小学生が渡れるか心配しましたが、前の人の足の運びと逆の足を出して揺れを防ぐ歩き方に注意して無事渡りきりました。また、途中にブナ（直径1m）の洞穴があり、こういう場所が熊の冬眠場所にあるとの説明に、参加者が交互に洞穴に入って確かめていました。



（吊り橋を渡る親子）



（ブナの空洞に入った子供たち）